

# フォトニュース

## 6自治会が合同で秋祭り



▲10月中に町内各地で秋祭りが開催されました。10月8日、5自治会(北田原・北野・紫合・柏梨田・上野)の太鼓台やだんじりが合流し、お互いの太鼓台の担ぎ上げ、だんじりのお披露目や南田原獅子舞会(南田原自治会)による獅子舞の演技、餅撒きなどが行われ、多くの見物者から惜しみない拍手と声援がおくられました。

## 子ども歌舞伎「練り込み」を披露

▶10月14日・15日、杉生地区の八坂神社で子ども歌舞伎「練り込み」が披露されました。練り込みは、江戸時代から始まった農村歌舞伎の流れをくむもので、杉生・西畑地区の子も達が「忠臣蔵」などそれぞれの配役の衣装に身を包み、化粧をして神社の舞台上で演技しました。



## いながわまつりに3万人が集う

▼ハッピーズのコンサートを楽しむたくさんの参加者



▲屋内展示された作品を鑑賞する参加者

11月3日、「第44回いながわまつり」が総合公園などで開催されました。仮面ライダーフォーゼ、ハッピーコンサート、絵画・書道・陶芸などの展

示やダンス・コーラスなどの発表、模擬店・バザー・フリーマーケット・野菜の即売など幼児から高齢者まで楽しめるイベントに約3万人が参加しました。

## いながわ桜まつりに向けて 菜の花の種をまきました



▲10月25日・同28日、県立猪名川高等学校野球部の部員など18人が、原地内の田畑(約30アール)に、菜の花の種をまきました。これは、来年4月8日に町道原

## いながわ 歴史ウォーク 104

初冬の行事「亥の子」

西日本一帯の初冬の行事に「亥の子」があり、今も四国では盛んです。「亥の子」とは無病息災・多産祈願の行事で、平安時代から宮廷・貴族間で行われ、農村では収穫儀礼のひとつとして普及し、猪の多産が収量の多さに結びついたらしく「亥の子神」は作り神・田の神として信仰されました。

11月(旧暦10月)の亥の日にアンコ餅(亥の子餅)を食べ、近所に贈答して収穫を祝い合い、子ども達は祝いの言を唱えながら各戸の戸口の地面を亥子槌(藁鉄砲)で叩いて餅や祝儀をもらいます。擦り切れた亥子槌は、主に子ども



▲亥子槌を持つ子ども(杉生)

が生まれた家の屋根に放り上げました。能勢地方は、室町時代から宮廷へ亥の子餅を献上して有名ですが、猪名川町域でも盛んに行われました。11月に亥の日は2回あれば先の日、3回あれば中の日に行われ、3回ある年は暖かいといわれます。またこの日から炬燵を出す火難を避けるのととで暖房具を出しました。最近ではハロウィンに取って代わられた感もありますが、地藏盆と並んで子ども達が楽しみにする行事です。

## サツマイモをたくさん収穫しました

▶10月17日、猪名川保育園の3～5歳児の園児77人が、町内の畑でサツマイモを収穫しました。

収穫したイモは、6月7日に園児達が40アールの畑に植えたイモ苗(品種：鳴門金時、約1,000本)が実りを迎えたもので、園児達は「わっ、おおきなイモ!!」「たくさんほれたー」「ちょっとおもたい」といった歓声があがりました。



町道原広根線の桜並木

広根線および対岸遊歩道周辺で開催する「2012 いながわ桜まつり」に一花添えようと企画され、野球部員がその一部を手伝いました。

同まつりは、ふるさと猪名川の良さを町内外に発信し、町の賑わいや活力を生むことを目的に観光協会と商工会が計画しています。

ひ▶思わずじっと見ていたくなるすばらしい色あいのひょうたんです。野木 瞭太郎くん(4年)



五年 近藤 颯大くん

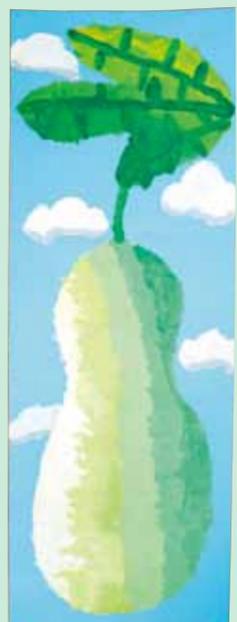
▲秋らしいぶどうがポイントです。とめ・はねが上手にできています。近藤 颯大くん(5年)



つつじが丘小学校

▼はねとはらいに気をつけて大きく元気な字が書けました。幸田 花音さん(3年)

つこう 田花音



▲太陽の光をあびて、すくすく育ったひょうたん。青空がよく似合います。大前 彩実さん(4年)